平成17年7月29日
海 上 保 安 庁

問い合わせ先
海洋情報部技術・国際課　火山調査官　大谷　康夫
TEL：03-3541-3813（直通）
海洋情報部海洋調査課　課長補佐　矢吹　哲一朗
TEL：03-3541-3815（直通）

海底火山「福徳岡ノ場」に新たな火口ができたことを確認
―― 海底地形の調査結果の速報 ――

海上保安庁は、７月２日に噴火した海底火山「福徳岡ノ場」の海底地形調査を７月２０～２２日に行いました。この結果を平成１１年に行った調査の結果と比較したところ、海底地形の変化が明らかとなり、今回の噴火活動で生じたと見られる２つの火口が新たに発見されました。

福徳岡ノ場は、南硫黄島の北北東約６キロにある海底火山で、これまでにたびたび噴火しており、昭和６１年には大規模な噴火活動による新島ができましたが、２ヶ月あまり後に消滅しました。その後は、変色水が見られるものの大規模な活動はありませんでした。

最近になって、平成１７年７月２～３日に小規模な噴火をし、７月４日以降は噴火も無く静穏状態を保ちながら、継続して海面上に変色水が見られるようになっていました。

海上保安庁では、今回の噴火に伴う水深の変化などを把握するため、７月２０～２２日に測量船「昭洋」（総トン数　３，０００トン、船長 諸富 格）に搭載されている小型の無人測量船「マンボウⅡ」（総トン数　５トン）を用いて福徳岡ノ場の海底地形の調査を行い、得られた水深データを平成１１年に同じくマンボウⅡを用いて行った地形調査の水深データと比較しました。

その結果、平坦になっている火山の頂上の北東部分に、平成１１年には見られなかった直径２００メートル、深さ３０～４０メートル程度の２つの火口ができ、変色水や火山ガスが出ていることが分かりました。また、これらの火口のすぐ南側に地形の高まりがあり、この最浅部の水深はおよそ１９メートルで、以前の火山の最浅部と比べ約３メートル浅くなっていることも明らかとなりました。

なお、海上保安庁では、今後も航空機等による監視を適宜行っていくことにしています。

マンボウⅡによる調査風景の映像を希望される方は、政策評価広報室(03-3591-9780)まで御連絡ください。

参考

〇福徳岡ノ場の主な活動

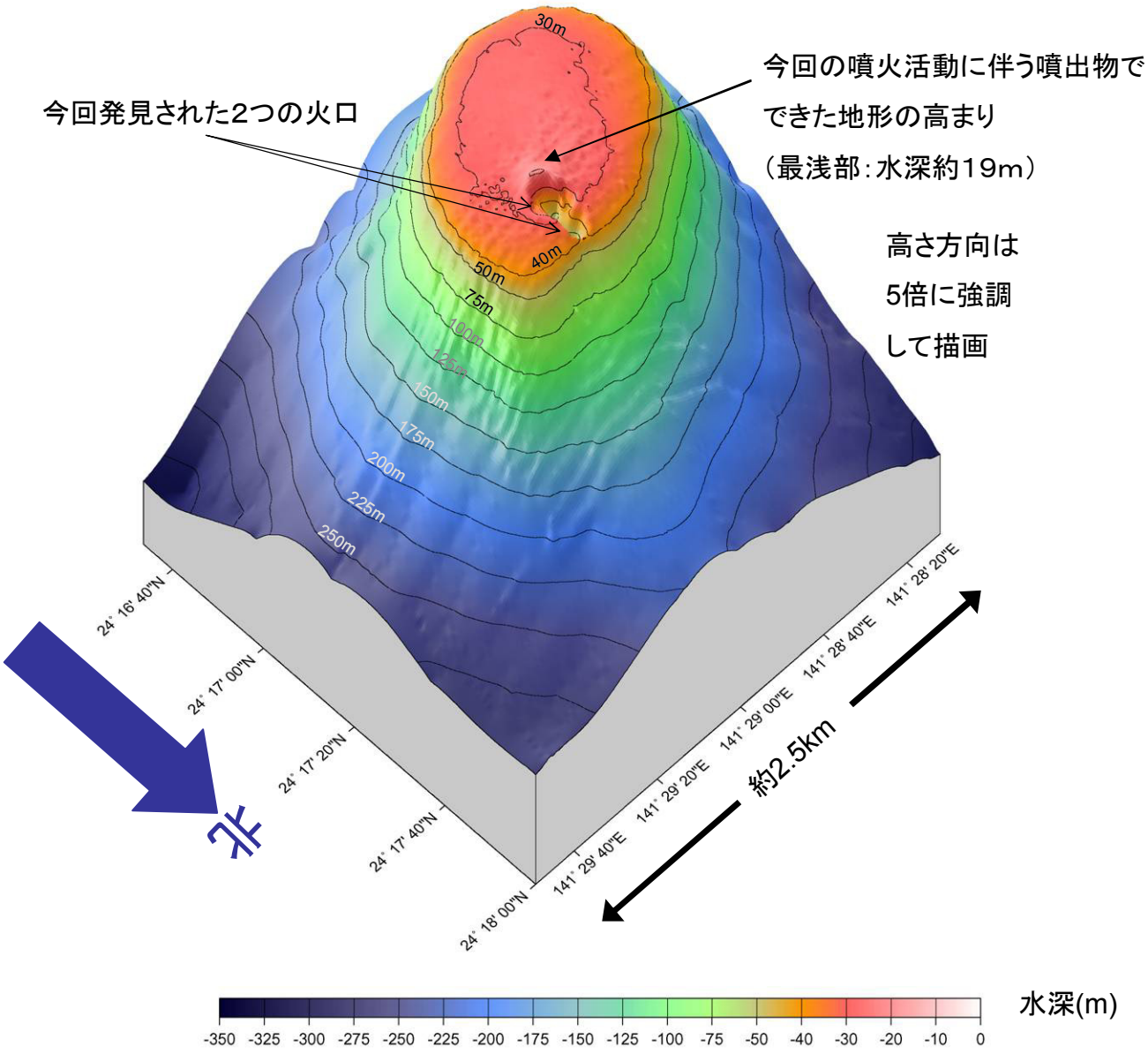
福徳岡ノ場では、過去に、島が形成されるほどの大規模な噴火活動が３回（1904 年～1905 年、1914 年、1986 年）確認されている。いずれも、噴火活動がおさまってからしばらくして、島は波による浸食のため消滅している。

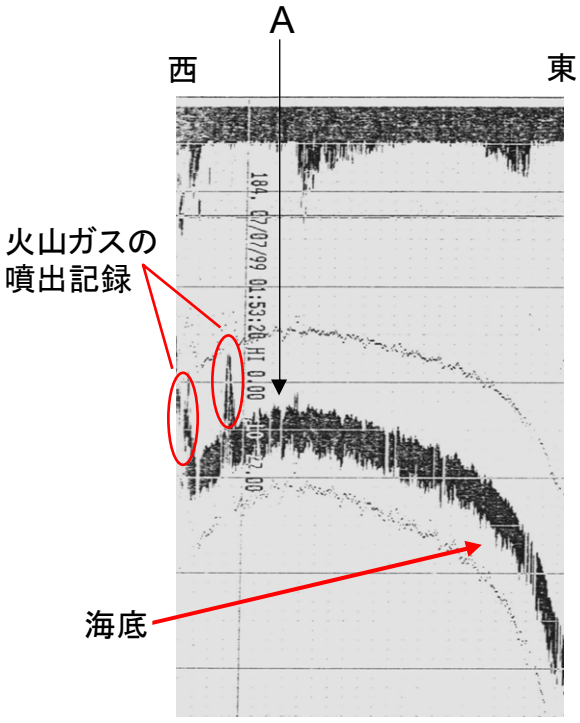
〇マンボウⅡ

特殊搭載艇「マンボウⅡ」は、測量船「昭洋」に搭載されている無人測量船で、測量船「拓洋」に搭載された「じんべい」とともに、海底の活火山の火口付近での測深等、危険な海底調査を実施する際に活躍する。

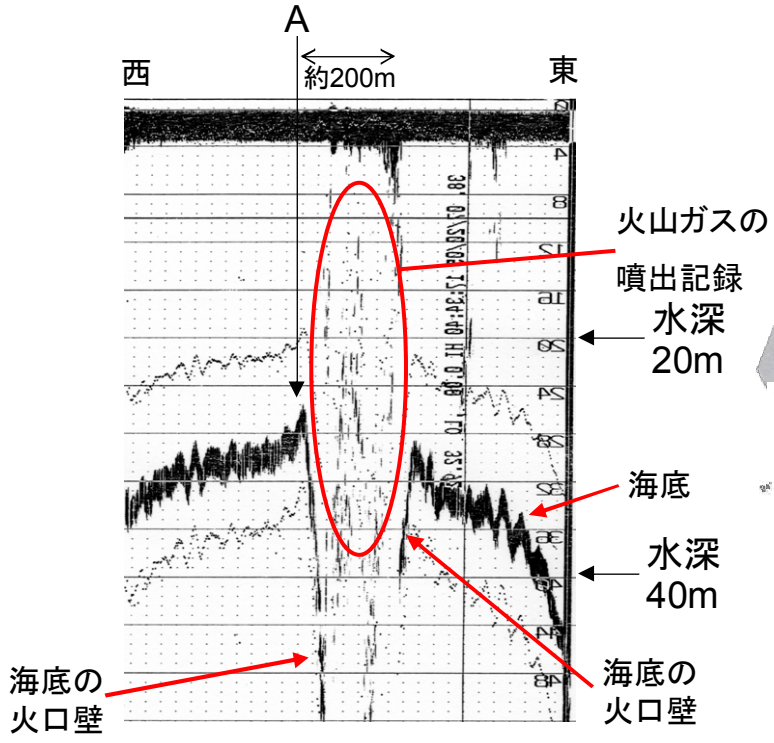
〇福徳岡ノ場の位置

マンボウⅡの調査結果より作成した鳥瞰図

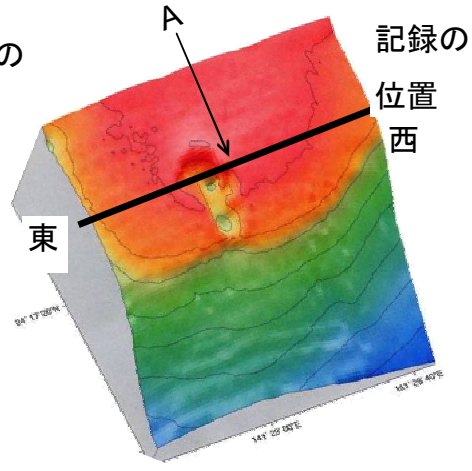




平成11年の記録



今回の記録



火口付近における東西方向の断面図（平成11年の調査記録と今回の調査記録の比較）

Aは同じ位置を示す。

今回の記録では、うねりにより海底に見かけ上の凸凹が見えている。

調査に向かう無人測量船「マンボウⅡ」
７月２０日　測量船「昭洋」より撮影

無人測量船「マンボウⅡ」と南硫黄島
７月２０日　測量船「昭洋」より撮影